

旭市青少年育成市民会議

近年、いじめや犯罪などの社会問題が、青少年を取り巻く環境に大きな影響を与えている中で、地域が連携して青少年の健全育成に取り組む必要性が増しています。

旭市青少年育成市民会議は、家庭、学校、地域に関わる各種団体や機関の代表者で構成され、青少年が心身ともに成長していける活動の普及や意見交換を行っています。

旭市青少年育成市民会議の活動

主な活動として、会議の開催や街頭での啓発活動、旭市青少年意見発表大会の運営を行っています。

会議では青少年の健全育成を目的に、さまざまな問題について話し合っています。各小中学校から提供される児童生徒の指導の様子や、学区内での各種団体の活動状況を報告することで、共通理解を図り、各団体の活動の参考にしています。

街頭での啓発活動は、旭市青少年育成市民会議委員のほか、旭警察署や市役所の関係課と協力して行っています。声掛けや啓発グッズの配布などを行い、犯罪や非行の防止、交通事故から児童生徒を守ることに繋がっています。

青少年意見発表大会

青少年に対する理解と関心を深めるために、年1回開催しています。日頃、青少年が何を考え、何を求めているのかを発表し、大人がその声に耳を傾けることで、青少年と大人の相互理解を深めるための重要な役割を果たしています。

今年度の大会では、小学生8人、中学生2人、高校生2人、青年1人の計13人が発表します。新型コロナウイルス感染症対策として、入場者を制限して意見発表を行います。一般の観覧はできませんが、後日インターネットで配信する動画で見ることができます。

現在のコロナ禍においても、青少年が胸に秘めている思いを発表し、大人がその思いを受け止めることで、青少年の育成のともしびを絶やさないように取り組んでいます。



自分の思いを発表する発表者

あさひ輝いた人々 第27回

キッコーマンで しょうゆを海外に 広めた人

もぎ けいざぶろう
茂木 啓三郎 (1899～1993年)



茂木啓三郎は、明治32(1899)年、富浦村(現在の中谷里地区)で生まれました。旧名は飯田勝次といました。東京商科大学(現在の一橋大学)を卒業した後、大正15(1926)年、野田醤油株式会社に入社しました。

入社後まもなく労働争議が起こり、その難題を根気よく解決しました。そのことが認められ、当時取締役だった茂木啓三郎の養子となり、二代目啓三郎を名乗りました。

昭和37(1962)年、社長に就任してから、清涼飲料水、ワイン、レストラン事業に乗り出し、醤油製造会社から総合食品会社へ、多角化を進めました。

昭和39(1964)年、社名を野田醤油から「キッコーマ

ン」に変えて、一層の躍進を図りました。その後、アメリカに醤油工場を建設するなど、醤油事業を海外で成功させ、日本の味を世界に広めた立役者となりました。

会社社長だけでなく日本醤油協会会長、経済団体連合会理事、経済同友会幹事、日本経営者団体連盟常任理事などを務め、日本の産業経済界の指導者の一人としても活躍しました。その活躍により紺綬褒章、藍綬褒章、勲二等瑞宝章などを受章しました。

野田市に住んでいましたが、地元を離れてからも生まれ故郷の旭のために、旭市育英基金を創設して人材育成を行ったほか、鎌数工業団地への企業誘致にも力を尽くすなど、旭市に多大な貢献をしました。その功績が認められ、昭和62(1987)年、3人目の旭市名誉市民となりました。



茂木啓三郎胸像
(中谷里加納院)



名誉市民推挙式での啓三郎